

生徒支援マニュアル（担任・支援員向け）

I. 基本情報

項目	内容
氏名	山下 海斗（やました かいと）
学年・組	2年B組
性別	男
年齢	14歳
診断	自閉スペクトラム症（ASD）・注意欠如多動症（ADHD）傾向
在籍形態	通常学級（特別支援教室 通級）
主担任	田村 美穂
支援員	阿部 俊介
作成日	令和7年4月20日

II. 支援の目的

1. 安心して学校生活を送れるよう、**予測可能で安定した環境**を整える。
2. 学習・行動・感情の特性を理解し、**個に応じた具体的支援**を行う。
3. 生徒自身が自分の特性を理解し、**自己調整力と自立心**を育む。

III. 主な特徴の整理

項目	特徴	対応のポイント
注意・集中	興味のあることには集中、苦手科目は離席傾向	課題を小分けにし、タイマーを活用する
感情のコントロール	注意を受けると強い反応	指摘よりも「どうすればいいか」を具体的に伝える
コミュニケーション	一方的に話す傾向、冗談が通じにくい	発言の意図を確認し、誤解を解く時間を設ける
感覚面	騒音・においに敏感	体育館・給食時は座席調整、イヤーマフ可
見通し	突然の予定変更に不安	事前に「変更カード」で予告し、理由を丁寧に説明
モチベーション	得意分野では積極的	鉄道・地理など得意を生かした活動へ参加させる

IV. 日常の支援ルール（チェックリスト形式）

1. 朝の対応

- 朝のあいさつは、**短く穏やかに**。返答がなくても問題視しない。
- 机の上に「日課スケジュールカード」を提示。
- 予定変更がある場合は**登校直後に伝える**。
- 提出物は一緒に確認（提出トレイ方式）。

2. 授業中

- 板書はゆっくりめに。ICT 端末でスライド共有。
- 離席時は「青カード（休憩）」を使うルールを徹底。
- 教師が感情的に対応しない。表情は落ち着いて。
- 苦手教科では**「今ここまでできたね」**と部分評価を伝える。
- 支援員は左斜め後方からフォロー。視線を合わせすぎない。

3. 休み時間・放課後

- トラブルが起きた場合、**事実確認を優先**し、感情論にしない。
- 休憩スペース（図書室奥・特別教室前）を常に利用可能に。
- 放課後に1日のふりかえりシートを一緒に記入。
- 終了後は「よく頑張ったね」で締める。

V. 支援員の具体的役割

場面	支援内容	留意点
授業中	課題の進行補助、指示の再確認	生徒の前に立たない・声を大きくしない
小テスト	問題文読み上げ・時間管理	他生徒への公平性に留意し静かに支援
行事・校外学習	移動・環境変化時の安心確保	事前に写真・地図で見通し提示
昼食・休憩	苦手環境（騒音）時の避難支援	イヤーマフや別席対応を事前確認
保護者連携	家庭連絡内容の整理と記録共有	学校と保護者の認識を一致させる

VI. 支援での「やってはいけない」対応例

- × 「なんでできないの？」と叱る
- × 「我慢しなさい」「みんなやってるよ」と一般化する
- × 予定変更を当日に伝える
- × トラブル時に複数の教師で囲む
- × 力で制止する・声を荒げる

→  「落ち着いた声」「事実の確認」「次の行動の提案」を基本とする。

VII. 支援での「効果的な声かけ」例

状況	不適切な声かけ	効果的な声かけ
課題をやらない時	「ちゃんとやって！」	「ここから3問だけ一緒にやろう」
感情が高ぶった時	「落ち着きなさい！」	「今、少し休もうか」
指示を忘れた時	「何回言えば分かるの？」	「次は何をするんだったかな？」
トラブル後	「謝りなさい」	「どうしたらうまくいくと思う？」

VIII. 家庭・関係機関連携

- ・ 保護者との情報共有は **Google フォーム連絡帳** で毎日実施。
- ・ 通級担当と月1回「支援ミーティング」を開催。
- ・ スクールカウンセラー（週1）と行動記録を共有し、情緒面のケアを調整。
- ・ 学期末には「支援計画評価表」を担当・支援員で共同作成。

IX. 緊急時対応マニュアル（行動が高ぶった場合）

1. 教室から安全に距離を取る（誘導は支援員が実施）
2. 「青カード」を見せたら静かに受け止め、**言葉で指示しない**
3. クールダウンスペースへ誘導（5～10分）
4. 落ち着いた後、本人の気持ちを短く聞き取り
5. 担任が「次はどうしたいか」を確認して再登校を支援

X. 記録・評価

記録様式	内容	担当
支援記録表（週次）	学習・行動・情緒の観察	支援員
クールダウン記録	感情高ぶり時の原因と対応	担任・支援員
IEP 振り返り	目標達成状況の確認	チーム全員
年間評価会議議事録	支援改善策の共有	特別支援コーディネーター

XI. まとめ

- ・ 山下海斗くんの支援では、**安心・予測・肯定的フィードバック**がキーワード。
- ・ 支援員・担任・家庭が一体となり、「**できた**」を積み重ねる**環境づくり**を継続する。
- ・ 「困っているのは本人」ではなく「本人が困らないように環境を整える」という姿勢を忘れずに。